

円山安養寺は長樂寺の北にあり、是も山門の別院にして、伝教大師の開基なり。本尊の阿弥陀如来は安阿弥の作、建久年中に慈鎮和尚すみ給ふ、其後時宗と改め、国阿上人住職せり。こゝに盲人源照といふ者、琵琶の妙曲を奏せしかば、天聴に達し、後小松院の恩寵を蒙り紫衣を賜ふ、是盲人紫衣の始といふ。源照はじめより当山に祈誓し、世に名譽あらん事をねがふ、然ふして願望成就せしかば当寺の本堂を建立す。

吉水の井は鎮守辨財天の傍にあり。「慈鎮和尚此地に住給ひしゆゑに吉水和尚といふ」青蓮院宮御代々の法親王灌頂の時、この水を闕伽とし、夜深更に例式の列を糺し來臨し給ひ、御手づから汲せらるゝといふ。

当山坊中の書院は昇らずして高樓に至り、清奇典麗いはん方なし。庭中には石を畳んで飛泉を催し、池を鑿ては舟をうかべ、緑樹芳草四季に花絶ず、蹴鞠の履の音涼しく、中にも多蔵庵（眼阿弥）の庭は相阿弥の作なり、多福庵（也阿弥）の書院の画は雪溪の筆なりとぞ。凡洛陽遊筵の地多かめれど此地に勝るゝはなし。